

セミナーの模様

“激動の時代の乗り越え方”

京都代協 新春セミナー・懇親会を開催



安井会長

セミナーでは、最初に安井会長が挨拶に立ち、「本日は講師に滋賀ダイハツ販売の後藤会長をお招きした。皆さんご存じのとおり、ダイハツは数年前に不正証問題により全車種、出荷停止となった。滋賀ダイハツ販売は大型ディーラーとしてその逆境を乗り越えて成長を続けられている。事業規模は異なるがメーカーとの関係を含め、後藤会長の考え方や取組



後藤氏

みは、我々にとって学ぶべきところが多い。少しでも今後の代理店経営に取り入れていただき、今年1年、皆様と元気にやっていきたい」と述べた。

後藤氏は、大学卒業後に電子楽器メーカーのセールスマンとして入社。シンセサイザーブームの最前線で生産現場を経験し、原価低減や工程改善に没頭した。その後、家業である滋賀ダイハツ販売に戻ると、就業規則も形骸化し、コンプライアンス意識も希薄な企業風土に衝撃を受けたという。「作りの手が数回を削る努力をしているのに、販売現場は数万円を値引く。このままではいけない」との問題意識が原点だった。

改革の柱に据えたのが「経営品質」の考え方だ。全国でも受賞企業が限られる日本経営品質賞に三

度目の挑戦で選ばれた。同賞が重視するのは①顧客本位、②独自能力、③社員重視、④社会との調和。中でも後藤氏が徹底したのは社員重視である。「社員の幸せが第一。社員は自社でしか幸せにできない」と語り、全拠点を回る早期勉強会を長年継続。理念浸透の仕組み化を図った。

真価が問われたのは2023年12月、親会社のダイハツ工業による認証不正問題で全工場が停止した時だ。新車供給が断たれ、販売台数は前年同月比で半減以下に落ち込んだ。それでも中古車販売へ即座にシフトし、顧

新車供給停止時も軽自動車シェア県内トップ 滋賀ダイハツ販売・後藤会長が講演

京都代協(安井義幸会長)は1月16日午後4時半から、京都市下京区のキャンパスラザ京都で会員ら49名参加のもと新春セミナー、ハトヤ瑞鳳閣で新春懇親会を58名参加のもと開催した。セミナーでは、新車供給停止という未曾有の危機に直面しながらも滋賀県内で軽自動車シェアトップを維持する滋賀ダイハツ販売株式会社・後藤敬一代表取締役会長が「激動の時代の乗り越え方」をテーマに講演を行った。懇親会には勝目康、前原誠司、泉健太、竹内譲、北神圭朗衆議院議員、西田昌司参議院議員、ならびに増田大輔京都府議会議員らが出席し、盛大な催しとなった。

客対応を徹底。結果、年度黒字を確保し、滋賀県内軽自動車シェアトップを守り抜いた。

「未来から今を決める長期ビジョンを持つ」と。派閥をつくらず、公私を混同せず、社員の成長を支援することがリーダーの責務」と後藤氏。激動の時代を乗り越える鍵は、トップの覚悟と、理念を現場に根付かせる地道な実践にあると強調

会場を移して行われた懇親会では安井会長の冒頭挨拶の後、功労者表彰があり、京都代協で30年の長きにわたり理事、幹事を務めた宮本代理店・宮本明彦氏に、安井会長から目録が手渡された。続いて、来賓の国会議員、および日本代協近畿・阪



小橋氏

神ブロック担当理事小橋信彦氏がそれぞれ挨拶を行った。小橋氏は「金融庁が保険会社向け監督指針を公表した。これに対し、日本代協はその妥当性について説明と意見を申し立てており、今後のフィードバックは速やかに共有させていきたい。有識者会議の議論が現場実態を十分反映しているのか懸念もあるが、参画できていることに感謝し、現場の声をしっかり届けてま

いりたい。来年のメガ損保統合を前に、保険会社との関係改善と「三方よし」の原点に立ち返り、京都代協一丸で支え合う環境を築いていきたい」と述べた。

歓談に移り、23〜25年取得者を対象にトータルプランナー認定者記念品贈呈式が行われた。



(損保版)

第1〜4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2420円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2026

79th Anniversary since 1917

創業昭和22年

保険・共済業界と共に歩んで79年